



第44回例会報告(5月27日)

【出席報告】

・会員数 52名
 ・当日出席率 76.19%
 <欠席会員> 青野(賢)、原(竜)、檜垣(巧)、飯、伊藤、小堀、村上(裕)、越智(務)、竹田、吉田
 [免除会員] 青野、原田、門田、松本、宮本、村上、野間、坂本、高木、八木
 <5/13欠席補填> (5/18今治南) 檜垣(賢)、檜垣(俊)、平尾、金森、冠、川上、小堀、竹田、渡邊(道)、渡辺(易)

・出席数 32名

・欠席数 20名

・前々回修正出席率 97.67%

会長報告・株式会社伊予銀行 今治支店長 横井和美会員より退職の為5月27日付けで退会届が提出され理事会にて受理いたしました。

幹事報告・6月のロータリーレートは1ドル92円です。

社会奉仕委員会アワー会

西信委員長挨拶:今治市教育委員会の高橋教育長に「これからの学校教育」と題して話してもらいます。最近は少子高齢化や学校教育にいろいろ問題があり、専門家の意見を聞く。高橋教育長は平成20年から教育長をされている。

高橋実樹教育長:日ごろ教育行政、学校教育にご理解いただき感謝します。きょうは三点について話します。教育の流れ 今治市内の学校の概要 子供たちの学力や心の育成 についてです。今大きく政治が変わっている。教育も変わろうとしている。教育基本法に則った新しい時代にふさわしい教育を力強く、総力を挙げて行わなければならない。故郷今治を愛する子供を育て、今治を支える人づくりをしていきたい。変化の時代は変化で対応すべき。しかし、全てを変えるのではなく、不易なものもしっかり継続し、前例にとらわれない違った視点で見直す眼力が大事。教育は、子供に確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視し、子供に生きる力を育てていくもの。子供のために学校があり教育がある。今治市の学校は、小学校30校・中学校18校の合計48校。児童数は小学生8,847人・中学生4,217人の合計13,064人。昭和56年は約3万人いたが、半数以下になった。今後も減少傾向が続く。子供が減ったことで、児童生徒の社会性を育む上で教育環境や学校運営面に心配が出てきている。どの程度の学校の規模で教育が行われるのが望ましいか。市通学区域調整審議会に諮問し、昨夏に答申が出た。市では、学校適正配置基本方針を策定。小学校は12学級以上24学級以下、中学校は6学級以上18学級以下が適正と思われる。昨年度の全国学力学習調査で、今治市は全国に比べほぼ平均だった。県内では上位にある。宿題など決められたことは、まじめに取り組む。自ら課題意識を持って取り組む子供は、平均にやや届かない。家庭学習や読書の時間も全国平均には及ばない。決まりを守る、いじめはいけない、人の役に立ちたいという規範意識は高い。自分に良いところが、有るは37.5%。無いが5.5%だった。自分に自信が無く、自己肯定感が持てないようだ。もっと自信を持ち、自分を大切に作る気持ちになるよう指導していきたい。教育は心だと思ふ。教育とは心を育てること。長い人生には嬉しいこと、楽しいことがたくさんある。その裏側には、つらいこと、苦しいこと、どうにもならない悲しいことに突き当たることがある。この苦しみや、悲しみを乗り越えて、人間として、人間らしく生き抜く、強くたくましい心を育てるのが教育だ。人間は一人では生きられない。支え合い、助け合って生きるものだ。誰かが悲しんでいる時、一緒に涙を流す思いやりを育てるのが教育だ。家庭も学校も地域の人々もこのことを大事に思って、子育てをしてきた。だから苦しみや悲しみを乗り越えて生きることができる。教育委員会として、校長先生を中心に地域の学校づくりができるよう支援し、子供たちの幸せのために頑張りたい。



<ゲスト> 今治市教育委員会 教育長 高橋実樹氏
 今治互助センター株式会社 常務取締役 青野淳一氏
 四国電力株式会社 今治営業所 所長 楠本金也氏
 <ビジター> 大阪うつぼRC 桑森ひとみ様 <弁護士>

次回例会(6月3日)

【職業奉仕委員会アワー】

<会員誕生祝> 矢野 暢生氏(6/5)
 <夫人誕生祝> 松本 篤氏(6/8)
 <結婚記念祝> 重松 宗孝氏(6/3)
 <入会記念祝> 松木 徹夫氏(6/4) 渡邊 道信(6/4)
 [健寿司]